

平成27年度 宇都宮都市交通戦略推進懇談会 結果概要

- 日時 平成28年3月22日（火曜日）午前10時から午前11時45分まで
場所 宇都宮市役所14A会議室
出席者 別添資料のとおり
内容
- 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 議題
 - (1) 宇都宮都市交通戦略の平成27年度の取組状況と平成28年度の取組予定について
 - (2) 宇都宮都市交通戦略の見直しについて
 - 4 報告事項
 - (1) 「芳賀・宇都宮東部地域公共交通網形成計画」について
 - (2) 「軌道運送高度化実施計画」について
 - (3) 「宇都宮市自転車のまち推進計画後期計画」（案）について
 - 5 閉会

【主な発言】

あいさつ

平成27年度は宇都宮の交通に関わる多くの事業が動き出そうとしている年である。1つは東西基幹公共交通、またそれに伴うバスネットワーク全体の広域計画、あるいは軌道運送高度化実施計画の届け出、自転車のまちづくりの計画もある。そういった意味では宇都宮市は大きく変わろうとしている。27年度の取組状況を共有し、皆様の意見をいただきながら28年度の取組に繋げていければと思う。活発なご議論、ご協力をよろしく願いたい。

議題(1) 宇都宮都市交通戦略の平成27年度の取組状況と平成28年度の取組予定について

会長

- ・事務局から説明されたい。

事務局

- ・資料1説明

会長

- ・質疑等あれば願いたい。

委員

- ・平成28年度の交通に関する予算は平成27年度と比べて増えているのか減っているのか。

事務局

- ・予算は増加する。主には、LRTの宇都宮駅西側への導入の検討や、ICカードの導入に対する補助等について増額となる。

委員

- ・別紙1-1の進捗状況において、「地域内交通の導入」の平成28年度の予定として、導入自治会の拡大ということで3地区あるが、運行エリアの拡大ではなく加盟自治会を拡大することによろしいのか、それとも路線バス事業者や鉄道事業者が網羅している範囲まで拡大することなのか。

事務局

- ・地域内交通については、1地区に1つの地域内交通の導入を進めており、この3地区においては地区内で地域内交通に加入していない自治会があるので、目的施設は変えずに、利用できるエリア（自治会）を拡大していくという主旨である。

委員

- ・別紙1-1の目標I-③の指標が示されているが、公共交通ネットワークの充実における満足度の平成27年度の数値がかなり落ちているが、この要因はどのように分析しているか。

事務局

- ・まだ理由が明確になっておらず、分析中であるが、良く捉えれば、関心・期待度が高まっていることの裏返しなのではないかと考えられる。さらには調査のサンプルの取り方が若干変わっており、変動幅が大きくなった可能性もあるため、引き続き分析を続けていきたいと考えている。

会長

- ・委員のおっしゃる通り、統計上有意に下がっているようにも見えるので、どのような点で前のサンプルと今回のサンプルとが違うのか、そのへんを丁寧に見ていただければと思う。
- ・平成28年度の取組予定と戦略の見直しの時期が重なることも想定されるが、見直しは中長期的なものか。

事務局

- ・その通りである。

議題(2) 宇都宮都市交通戦略の見直しについて

会長

- ・事務局から説明されたい。

事務局

- ・資料2説明

会長

- ・質疑等あればお願いしたい。

委員

- ・県央広域都市圏生活行動実態調査が平成4年から平成26年まで22年間実施していないが、国勢調査でも5年に1回は実施しているので、今後はもう少しこまめに実施していくべきではないか。
- ・東武線の場合は、東武宇都宮駅から西川田駅までの4駅あるが、特に西川田駅については、オリンピックや国体を見据えて、県の事業で周辺整備や道路の拡張を進めているが、今後、大きく変わるようになると思う。公共交通の観点でいえば西川田駅までどのように行くかということ、そして、ピークでは3万人ともいわれる利用者をどのように捌くのかということも考慮すると、駅の整備要望なども交通戦略の中に入れていくべきではないかと考える。

会長

- ・大変的確なご指摘で私も同感である。

委員

- ・街中を車で走っていると自転車でよろよろと走っているお年寄りがいて、危ないなと感じながら車を運転している方も多いと思う。
- ・バス路線再編やLRTとの結節等、どのように網羅されていくか分からないが、バスや地域内交通が運行していない時間帯で、高齢の方が外出する際にスムーズに移動できるのか、という観点で、タクシーのことも考慮していただきたい。
- ・タクシー業界としても東京などでは実施されているが、近距離の移動については半値で始まるなどの施策にも取り組んでおり、タクシー事業者も努力をしていくので、交通空白時間の解消や交通弱者のためのドアトゥードアの交通機関も考えていただきたい。

会長

- ・関連して、宇都宮が特定地域に指定され、タクシー業界では新規参入が禁止されるということで、需給調整が入る。そういった意味では、宇都宮市のタクシー業界にとっては大きな転換期になろうかなと感じている。公共交通におけるタクシーの役割は大きいと感じているので、ぜひとも交通戦略の中にタクシーの位置づけをきちんとして、公共交通とタクシーが一体となった交通戦略を進めていくシナリオを作っていただきたい。街作りの中には不可欠であるので、そのようなストーリーを考えていただけると、私からもお願いをしたい。

委員

- ・資料2(7)「公共交通とまちづくりの連携」の中で、見直しの視点として産業振興との連携という点では、平出工業団地の松下電器跡地を宇都宮市が有効に区画割をして製造業誘致等をやっていくのだと思うが、瑞穂野や清原を含めて、過去の失敗として、従業員がみな自家用車で通勤してしまい、渋滞が起きるということを踏まえる、JR宇都宮駅と岡本駅の間に新設駅の要望をしていくことも重要なのではないかと考える。

会長

- ・今回は交通戦略の見直しということで、前回の交通戦略を作る時のお手伝いをしたのでよく覚えているが、宇都宮市の都市交通戦略はよくできており、全国的にも模範的なものである。ただ一方で、L R T、バス、自転車ネットワーク、公共交通、バスの再編など、各モードはしっかり議論されているが、次の戦略では、是非「連携」というものを大きく取り上げてほしい。いろんなモードがお互いに手を携えて繋いでいくということが一番重要だと考えている。そういった意味では、前回そこまで踏み込めなかったのが、具体的にどうするのか、例えば、人とバスをつなぐ、バスとL R Tをつなぐ、自転車と公共交通をつなぐ、タクシーと公共交通をつなぐ、その結節点をどうするか、乗り換えをどうするか、どのような役割分担をするか、この辺をもう少し拡充していくことが今後の見直しの大きな山場になるのではないかと考えている。
- ・「連携」というのは言葉でいうのは簡単だが、非常に難しく、事業者が違ったりとか、一方は行政で一方は民間であるとか、違うものをつないでいくので、それらを結びつける皆さんが努力をしたり、場合によってはお互いに一步譲り合うような仕組みの中で、全体のネットワークの構築をしていくべきものだと思う。L R Tと上手に連携を取りながら併せて進めていくことが、他の市にとって一番脅威な街になる。
- ・「立地適正化計画」については、昨年末時点で220の自治体が作成しようと頑張っている。人口減少社会の中でコンパクトにしなければ生きていけないと皆が思っているが、220の自治体の中で誰がトップランナーになるのかというところで、私自身は宇都宮がトップランナーに入っていると思っているが、宇都宮が確実にトップランナーになるためには、皆様がお互いに連携を取ってやっていくということが大切であり、合意できる所から順次進めていければと考えている。
- ・ほかに質問等が無いようなので、議題については了承するという事でよろしいか。

委員一同

- ・異議なし。

- 報告事項(1) 「芳賀・宇都宮東部地域公共交通網形成計画」について
- (2) 「軌道運送高度化実施計画」について
 - (3) 「宇都宮市自転車のまち推進計画後期計画」(案)について

会長

- ・事務局から一括で説明されたい。

事務局

- ・資料3, 資料4, 資料5説明

会長

- ・資料5についてであるが、自転車走行空間の整備において、現状21.7kmとあるが、資料1の別紙1-2, 4-③では17.6kmということで数字が若干違うようだがどのような解釈をすればいいか。

事務局

- ・21.7kmにつきましては平成28年3月末の見込みの数字ということで後期計画に掲載する数字としては21.7となり、17.6kmという数字は平成27年3月末時点の実績である。資料の記載を整合させる。

委員

- ・自転車道の整備ということだが、これは最近見る道路の両端にある青い線が引いてある道路ということか。

事務局

- ・その通りである。

会長

- ・ナビマーク（矢羽根）は含まれないのか。

事務局

- ・矢羽根も含まれている。

会長

- ・もう1点気になることをお話しさせていただくと、LRTの整備については、今年度に事業を開始し、これから部分的に工事に着手するところが出てくると思うが、工事期間が2年から3年程度かかるということで、工事をする段階で周辺に渋滞を発生させる可能性が非常に高いと理解をしている。その期間に、渋滞に関する周知、情報提供をしっかりとやっていただきたい。フランスの事例をいろいろと調べ、現地の担当者に話を聞いたところ、整備期間中に市民からの問い合わせが殺到するので、その際に出来るだけスムーズな説明、あとはオープンハウスのようなものを作り、情報を一括で管理して情報提供するとか、渋滞が発生するので自家用車ではなく公共交通や自転車、タクシーの利用を促すモビリティマネジメントを実施するなど、工事が始まってからはいくつかの問題が発生すると思うので上手に調整・対応しながら市民PRに努めていただければと思う。

以上